

本を選ぶ

高校図書館版

NO. 23 1997年(平成9年)5月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL03-3235-6168

ぶっく・えんど

私と図書館

小学生のころ、「図書の先生」というのは私のあこがれの職業でした。毎日、下校放送が鳴るまで図書室でねばり、図書の先生の仕事のお手伝い(邪魔?)をさせていただいたり、友だちにおすすめる本を紹介したりしたものでした。その後、小学四年から中学にかけて、父の仕事の都合で滞在した北ドイツの町では、日本語補習校の小さな小さな図書室(というよりむしろ本棚)の本を端から端まで読み、新しい本が届くのを、いつも楽しみに待っていました。今になってみると、小学校時代とそれに続くドイツでの、図書館との出会いとそこで過ごした楽しい時間が、現在の私の出発点であったのだと思います。

残念なことに、図書館とのつきあいが一番希薄だったのが高校時代です。私の通っていた高校の図書館は、校舎とは別棟の古い建物で、木々に囲まれてひっそりたっていました。小・中学校までの図書室とは違い、独立した図書館ということで、期待して足を踏み入れたのですが、中は閑散としていて、書架にぐっと顔を近づけないことには、背表紙の書名も判読できないような本が、べったりと並んでいるというような感じを受けました。そんな第一印象のまま、図書館からはすっかり足が遠のいてしまい、一方で、伝統的に行事の盛んな学校だったため、年中切れ目なく、運動会、クラスマッチ、文化祭…といった行事を追

いかけるという高校生活を送ることになりました。ようやく再び図書館に足が向いたのは、大学入試直前の高校三年の冬でした。とはいえ、ただただ連日、受験参考書を抱えてやってきては、勉強部屋がわりにしていたというありさまです。そんな私たちを、司書の先生はいつも暖かく迎えて下さり、「がんばれよ」と励まして下さったのがありがたく、卒業間近になって、もっと違った図書館の利用の仕方もあったのになあ、と悔やまれたことを思い出します。

外国語学部に進んだ大学での図書館利用は、もっぱら調べものと勉強ということになってゆきました。その後大学院生であったときに、思いがけず図書館の仕事にたずさわる機会を、二度得ました。ひとつは、小さな人が初めて出会う図書館・家庭文庫のおねえさんでした。そこで毎週毎週、下は三歳から上は中学生までの子どもたちにせがまれるままに読み聞かせをしたことが、後にドイツの子どもの本の翻訳を手がけるようになったときに、大きなよりどころとなりました。ことばのリズム、文章のリズムを体で覚えることのできた、またとない文章修業の場でありました。もうひとつは、大学の文学部図書館で、(あこがれの!)カウンターの中に入っての仕事でした。置かれている本も仕事の内容も、まるで違っていましたが、どちらの図書館も私にとって、そこにいるだけで、数え切れない本の中に広がる知らない世界を、自分のものにしたような錯覚に陥らせてくれる、心豊かな空間でした。今、絵本を楽しむようになってきた二歳の娘とともに、新たな図書館とのつきあいが、始まろうとしています。

(吉原 素子：ドイツ文学研究者)

子どもの情景から図書館の仕事を考えてみると

中村 吾子

「子どもの情景」というシューマン作曲のロマンティックなピアノ曲集があります。そんな優雅な「子どもの情景」とは、ちょっと違った子どもの情景が、私の仕事場である「学校図書館」で繰り広げられています。

右往左往の一年目

私が大学を卒業して初めて赴任したのは、長野県の西の端にある、全校生徒400人足らず、しかも通ってくる生徒の80%以上が学校所在地と隣の村、その二つの村の出身者という小さな学校でした。山の中の村でしたので、都市部というか隣の市にある進学校や実業高校へ行く子もいましたが、地理的にそちらへ通学できない子もいて、学力はまちまちでした。

大学では、「図書館とは」「ライブラリアンとは」などと理想論をたたき込まれてきた身には、学校図書館の現場は驚きの連続でした。なにしろ、学校で習ってきたことですぐに使えるのは、分類法と目録法くらいなのです。しかも子どもたちにしてみれば、ていのいい遊び相手がやってきたという感覚なのです。

私はさっそく遊び相手に選ばれたようでした。チョコチョコとやってきては、悪戯をして帰っていく。手始めに100冊近い文学全集の天地と前後を全部ひっくりかえしていきましました。気がついた私がオロオロと元に戻したのを見計らったように、次の本棚の本をひっくりかえしていく。最後にはなんとなんと7段の複式書架を2本丸々、天地返し裏返しにされてしまったのです。これにはさすがに頭にきてしまいました。やったとおぼしき子どものクラスの図書委員を呼び出して直させたりもしました。身に覚えはなくても、誰がやったのかわかっていても、カンカンに怒っている私を前にしては、彼らはどうしようもありません。私などよりはるかに背も高く体格もいい男の子たちが、ブツブツと文句を言いながらも本を並べかえていた姿が、今でも目に浮かびます。

さてこの「事件」、後日談があります。この直後、私は初任者研修が入っていて三日ほど学校を

留守にしました。研修が開けて、学校へいってみると、子どもたちの様子が変なのです。休み時間になると2~3人ずつ図書館をのぞきにきては、「いる、いる」と言って廊下を駆けていくのです。すると、また他の子どもたちがのぞきにやってきて…。私は「おかしいなあ」と首を傾げます。係の先生が笑いながら教えてくれたところによると、私が研修にいつているとは知らない子どもたちが、学校へやってこない私を不審に思っけて聞きにきたのだそうです。そこで先生は、「あなたたちがあんまり悪戯するから、もう学校にきたくないって言っていた」とそしらぬ顔でこたえたそうです。そして毎日、私は学校へやってきない……。

大笑いでした。しかも次の休み時間にやってきた子どものひとりには、「これ先生の本だからね。きちんと読んだよ」と、一冊の本をさしだしたのです。本のタイトルは、『登校拒否』でした。

それで子どもたちの悪戯が止まったわけではありません。私の目の前でキャッチボールをしてみたり、授業を抜け出してきて、図書館でウロウロしてみたり。そのたびに私は、私よりも頭一つ大きい男の子たちを見上げながら、ケンケンゴウゴウと怒るわけです。

最初はビクビクしてたけど

赴任してから、何人もの人に、「たいへんな学校でしょう」と気の毒そうに言われました。

そんなとき私は決まって、「そんなに大変じゃありませんよ。もちろんオイタはするし、聞かない子もいますけど、本当はみんないい子ですよ」と答えました。すると相手が、ちょっとびっくりしたような、「本当かよ」と言いたげな顔をするのも、いつものことでした。

ダボダボのズボンをはいて、モジャモジャの髪の毛。半分剃っちゃった眉毛。身長は170cmを越えているような男の子たちが、悪戯をして注意された挙げ句に、「そんなに言うこと聞かないなら勝手にすればいいでしょ。もう知らないから」と、パイと司書室の机に戻って仕事を始めた私の所へ、「先生、そんなに怒るなやあ。悪かったでえ」なんていいな

8年間をふりかえって思うこと

がら、身を縮ませて謝りにくるのです。大変な学校と言った人にお見せしたいような可愛い彼らでした。

彼らは教室ではそれぞれ、先生方の手を煩わせていた子どもたちです。私だって最初は彼らにビクビクもしました。でも彼らが、頭っから拒否されたり、無視されたりするのがいやなだけなのだ、と気がついたらコワサはなくなりました。

彼らは卒業するまでの1年間、ときにはおとなしく雑誌を見たりもしていましたが、まるで私を試すみたいに悪戯をしに図書館へやってきました。

「この人はまだ、自分たちを怒ってくれるかな。かかわってくれるかな」。彼らは怒られることで、私とかかわっていたのだと思うのです。

この図書館での3年間、本を借りにきてくれた子どもたちももちろんたくさんいました。なにしろ村には公共図書館も、本がたくさんある本屋さんもなかったの、結構あてにしてくれていたのです。弟たちに読んでやりたいからと一度に10冊もの絵本を抱えて帰った女の子。「お母さんと読んでいるから、返すのもう少しまってね」と言って『赤毛のアン』シリーズを読破した子。菊池秀行と夢枕獏と宗教論にやたら詳しくて、放課後中かけて私にレクチャーしてくれた男の子。真剣な顔で、「社会問題の本を貸してください」とやってきた子など…。

図書館には居場所があった

図書館で働きたい、と思いはじめたのはいつのいつのことだったのだろう…。学校図書館で働きはじめて7年が経つ今、そんなことを考えるときがあります。気がついたときには本を読むことが好きで、「図書館」という場所は自然と私の居場所の一つになっていました。大好きな本がたくさんあって、本の話ができる人が必ずいてくれる所。図書館独特の日向臭い、埃の匂い。遠慮がちなざわめきと、静けさ。それが私にとっての「学校図書館」でした。

大学生のときに、「開かずの図書館」や「無人の図書館」の話をして友人たちから聞かされてひどく驚きました。私は長野県の東にある小さな

町で生まれ育ちましたが、私が通ったどの学校にも、図書館には一日中、専任の司書の方がいました。だからこそ私たちは、友だちと喧嘩をしたといっは泣きつきにいき、急ぎのときにも単に何か読みたいときにも本を探してもらえ、なんとなくそこにいたいだけのときにも、居場所を見つけることができたのでした。「読書」は、個人的な経験にすぎないかもしれませんが、でも、図書館という場所を起点にすることで、同じ想いを人と共有することができたり、一冊の本をなかだちにしてたくさんの人たちに出会うことができるのです。私は小学校から高校までの12年間に学校図書館で暖かな幸せな思い出をたくさん作ることができました。だからこそ、「図書館の先生になりたい」と考えたのだと思うのです。



筆者/中村吾子さん

学校図書館の仕事

「公共図書館と学校図書館の司書の違いって、なんだと思う？」司書仲間とそんな話をしたことがあります。大学の司書課程で習ったおぼえはありません。もちろん、理論上ではきちんとした位置づけもあるような気はしますが(もし習っていたら、先生許してください。)

学校図書館にいと、「これって、司書の仕事なのかな」と首を傾げざるをえないようなことで、半日いいえ一日が終わってしまうこともままあります。例えば「友だちとけんかをしちゃった」「彼氏(彼女)にふられちゃった」「親と進路のことでめっちゃった」etc.etc.子どもたちの話は「本」にたどりつかないまま時間が過ぎていったり。

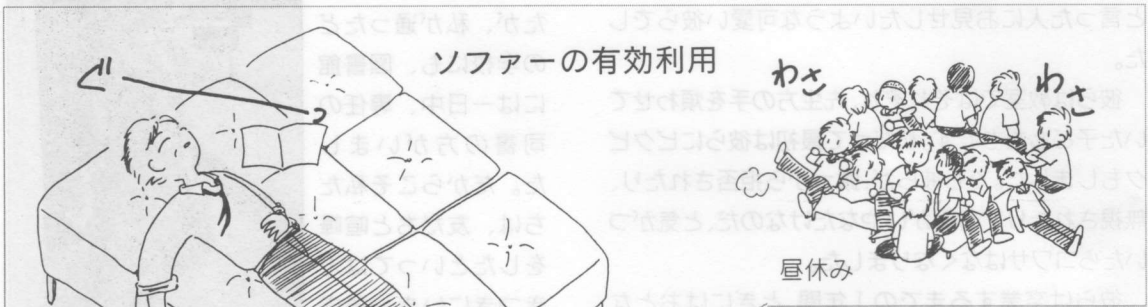
私が、公共図書館の司書とは違う学校司書の仕事の一面を強く感じるようになったのは、勤めて四年目。現在の高校に赴任して、その子どもたちを知ってからでした。(つづく)

(なかむら あこ：長野県立軽井沢高校図書館)

先生も利用者

穂積絵理子

埼玉県立庄和高校図書館



8年間をふりかえって思うこと 私のコンピュータ導入奮闘記⑩

木下通子

はじめに

1997年度に突入しました。今年は転勤かと思っていましたが転勤することもなく、私はまだ岩槻商業高校でお世話になっています。そして、図書館にコンピュータが導入されて八年目が終わろうとしています。

この連載をしめくくるにあたって、1989年7月の導入当時の資料を引っ張り出してみました。予算要求のため学校に提出した資料に、パソコン導入の目的として、①蔵書管理、②情報検索の活用、③貸出業務の簡素化を図る、④他校図書館とのネットワーク化が書かれていました。完璧ではないけれど、①～③は何とか目的が達成できました。④についても、目的として記した他校とのコンピュータでの情報のやりとりや合同目録の作成はできていませんが、物流面でのネットワークを始めています。こう考えると、コンピュータ導入の当初の目的は一応達成できたと言えるかもしれません。

未入力本は何冊？

すべての本をバーコードで貸すようになって1年たちました。その間に発見した未入力の本は約10冊。すべて、貸出のときにデータなしということで発見された本です。未入力の本が396冊の状態です。スタートした貸出(本誌21号)でしたが、1年間で見つかった本が10冊というのを多いと見るか少ないとみるか、難しいところです。

3月に入って、バーコードを読み取る形で蔵書点検をしました。「かすぞう君」付属の蔵書点検ソフトで点検を行ったのですが、すべての本のバーコードを読み取り、機械に処理させたところ、“この番号はつかわれていません”という本が、140冊近く出てきました。これこそ、未入力の本です。が、残念なことにバーコードの番号だけではこの本がどの本なのかわからないのです。もう一度一冊ずつ見てこの番号を探すわけにもいかないし…。蔵書点検のシステムの関係で何件目に点検した本かは検索されるようにはなっているのですが、点検をするときにそんなことを考えずにどんどん交代で読んでいったので、どの本棚から

順番に読んだのかもわかりません。これは次回、蔵書点検をやるときの反省点になりました。

結局、未入力の本が0件になるのは、欠番の番号に新しい本を入れ込んでいくしか方法がないのかもしれませんが。でもそれも、見つかったときに嫌なので、とりあえず欠番のままにしておこうと思っています。

問い合わせの数々

先日、県内の高校から「学校の〇周年の特別予算を図書館でもらえることになったんですけど、パソコン関係で使おうと思って…」という電話がありました。くわしく話を聞いてみると、蔵書管理をするのはたいへんだから、生徒に開放できるパソコンを購入して、CD-ROMを買って閲覧室に設置したいのだけれど、どんなCD-ROMを使っていますか？というものでした。こんな問い合わせをいただくと、時代は変わったなとつくづく思います。

くわしく記録を取っていたわけではありませんが、連載初期の頃いただいた問い合わせの内容は、「データの入力」についてが多かったと思います。それも桐などの市販のソフトを加工するなども含めて、自分の学校で作ったソフトにデータを入力していくパターン。データ入力はどれくらいの期間でできますか？というものでした。私もその頃はデータ入力に四苦八苦していたので、CD-ROMも使わずに自分で入力を進めるという方には、「労力がすごくかかるので、通常の図書館サービスに支障をきたしますよ」とお話していました。

コンピュータの見学を目的に岩槻商業高校に来て下さった方も1993～1994年が多かったように思います。とりあえずコンピュータを入れたいけどどうしたらいいかと漠然と考えられての訪問でした。そのころはいらぬコンピュータが図書館に回ってきそうだからというお話が多くて、相談を受けた私も困りました。蔵書管理をする目的でコンピュータ導入を考える場合、やはりソフト選びがいちばんであること。そのソフトが使えるハードを選ばなくてははいけないこと。データ入力をど

うるかが最大の問題だから、そのための予算確保や労働力確保が必要なこと。などを、うちの学校を例に挙げて説明しました。機械さえあれば何とかなっちゃうと思って訪ねてこられた方も、そう説明するとだいたい「もう一度考えてみます…」とお帰りになりました。

CD-ROM大活躍

4～5年前と比べると図書館にコンピュータを入れる目的や考え方はずいぶん変わってきているようです。

昔ならコンピュータ導入というと、イコール蔵書管理というのが定番でしたが、今は蔵書管理をさせるにはお金と労力がかかるので、最初からそれは考えないで、CD-ROMの検索やインターネットなどのために導入する学校が増えているようです。CD-ROMなども昔と比べるとずいぶん安価になり、購入しやすくなりました。実はうちの学校には、今、12種類のCD-ROMが入っています。どんなものが入っているかちょっとリストアップしてみます。

- CD-ROM版 大百科事典(平凡社)
- 現代用語の基礎知識1992-1996(自由国民社)
- 電子広辞苑第4版(岩波書店)
- 模範六法CD-ROM版(三省堂)
- CD-H I A S K 朝日新聞縮刷版 1994-1996(日外アソシエーツ)
- J-B I S C(国立国会図書館)
- CD-BOOK1986-1995(日外アソシエーツ)
- 彩B I S C(埼玉県立図書館)非売品
- NHKできごと(NHK情報ネットワーク)
- インターアクティブ百科 世界の歴史(DDP デジタルパブリッシング)
- インターアクティブ百科 サイエンス(同上)
- インターアクティブ百科 ネイチャー(同上)

連載第三回(本誌16号)で、CD-ROMのことは少し触れましたが、最初6種類しか入っていなかったCD-ROMが倍に増えたのです。埼玉県立図書館の蔵書目録の『彩B I S C』は無償で県から提供されたものなので他のCD-ROMとは意味合いが違うかもしれませんが、倍に増えたのはやはりそれだけCD-ROMが便利で活用されたからだと思います。

私が、調べものに来た生徒にCD-ROM検索を

すすめていることと関係していると思いますが、キーワードで探せること、検索結果をプリントアウトして持っていけることが生徒には好評です。年配の先生はCD-ROMというと使うのをためらう方もいるのですが、そういう方にはこちらで検索して、データを差し上げています。『J-B I S C』などの書誌情報を検索できるCD-ROMは、あいまいなリクエストのときに活躍しますし、それ以外のものはレファレンスの回答を探すときに使えます。そういう意味ではCD-ROMが入っていちばん便利になったのは、司書かもしれません。

短大や大学の図書館はインターネットでの検索をどんどん進めているようです。学校図書館の場合、図書館に電話回線がないところが多いのでインターネットまでたどりつくのはなかなか難しいことでしょうが、書誌情報などもネット上で検索できる時代です。意外と早く学校図書館でインターネットが使える日が来るかもしれません。

CD-ROMに関して、一つ心配なことは「CD-ROMを導入したけど、ぜんぜん利用されなくて…」という学校もあることです。CD-ROMが利用されるかどうかなどは、日常の図書館利用にかかってきます。利用者が図書館を使うのが当たり前になっていて、宿題が出たり、レポートが出たりしたときに図書館へ来る。「〇〇について調べたいんだけど、何みればいい?」と声をかけられたときに、司書が「CD-ROMで引いてみる?」と声をかけて利用が始まるのだと思います。

現に、今年購入したばかりでまだ活用されていないのですが、『サイエンス』『ネイチャー』などの自然科学系のCD-ROMは、化学や生物の課題を調べに来ている生徒からの要望で購入しました。『平凡社 大百科事典』などには化学式なども出ているので、CD-ROMで化学式などを検索している生徒たちから、「化学のCD-ROMも買ってよ」と言われたのがきっかけです。

貸出をパソコンでする場合も…

蔵書管理を目的にコンピュータを導入する学校の考え方も昔と比べてずいぶん変わりました。一つはコンピュータを導入するのにも維持していくのにもお金がかかるというのを、学校側が理解してくれるようになったことです。理解が得られるようになったのは、やはり校内にコンピュータが入ってい

るのが当たり前になったからでしょう。埼玉県内でここ2～3年の間にコンピュータを導入した学校のやり方を聞いてみると、①いくつも出ている学校図書館用ソフトの内容を検討し、自分の学校にあったソフトを選ぶ、②そのソフトと対応する周辺機器を選ぶ、③遡及分のデータは導入の際に一括購入するというパターンが多いようです。遡及分のデータをすべて一括購入できないにしろ、『J-BISC』や『CD-BOOK』などのCD-ROMからのダウンロードについてもしっかり考えて予算に組み込んでいるようです。もちろんこれだけのものをそろえるにはパソコンが安くなったと言っても何百万円のお金は必要で、それをどこから捻出するかというと、やはり〇周年記念などの特別予算が多いようです。埼玉県はコンピュータを導入している学校も多く、初期に導入した学校がいかにか苦労したかというのを身近に知っている人が多いので、無理な導入を考える学校はたいへん少ないと思います。千葉県や三重県などは、県の高校図書館研究会でオリジナルソフトの開発などもしているようです。

うちの学校のこれから

うちの学校のシステムも全面的に考え直す必要はないでしょう。その際には、オリジナルソフトでなく、やはり学校図書館用のパッケージソフトを導入することになるでしょう。もちろん、パッケージソフトを購入したから楽で安心ということはありませんが、私の時間と能力を含めて少なくとも今の状態では、ソフトのバージョンアップを図るのが難しいのです。それに、ハードの変化もめざましいので「かすぞう君」や「LIBROS」が動くハードがなくなってしまうのではないかと心配しています。次回ソフトを選ぶとしたら、何を基準にソフトを選ぶか。それは、パソコンを使っていなかったときより、使っている今の方がずっとはつきりしてきたと思います。

貸出ソフトに関しては、予約・督促状なども含めて、利用者のプライバシーが守られる形のもの。予約がたくさんつけられるもの。できれば、複本で本がある場合の予約対応ができるもの。バックアップなどが簡単にとれるもの。ペストリーディングや予約ベストテンなどの統計がとれるもの。これらはすべて今のソフトでは対応できないので、あるといい

な一と思っているものです。

蔵書管理の部分では、利用者が楽に蔵書検索できるもの。今うちで使っている「LIBROS」は操作が難しく、利用者に検索端末を開放していません。そして、今でも便利に使っているのですが、入力したデータをワープロソフトに取り込めるもの。ブックリスト作成のときなどの編集が楽なもの。こんなところが、私にとってもポイントでしょうか？

どちらにしろ無いものをほしいと要求するより、変えていく方がずっと難しいと思います。ソフトの更新については、今のソフトの問題点を整理すると同時に、お金を出してもらえそうなところをにらんでタイミングよく要求していかないと実現しないだろうと思っています。そろそろ転勤かなと思っていますので、実際には取り組めないかもしれませんが…。

さいごに

コンピュータ導入と直接関係はありませんが、この8年の間に学校内での図書館の位置付けがずいぶん変化した気がします。貸出が伸びて、図書館の運営も利用者の要求に応えるというのを第一目的に置くように変わり、それに伴って生徒や教師の図書館利用が当たり前のことになってきました。図書館が中学生の見学コースに入り、一年生のいちばん最初に生徒が書くことになっている作文に、「中学生の時に岩槻商業高校を見学して、図書館を見ていいなと思った」という文章がチラホラ見えるようにもなりました。

「らいぶらりい いんふおめーしょん」の作成などを含めて、今私が行っている図書館活動にコンピュータが使えないというのは考えられないことですが、もし、反対にこれからコンピュータ導入を考えなさいと言われても、昔のようにむこうみずに取り組めなかったかもしれません。やはり、思い切りよく学校に要求を出し、自分でできますと回りを説得できたのは、当時はまだまだ利用が少なく、時間に余裕があったからだと思います。もちろん、コンピュータ導入に1,000万円くらいの潤沢な予算があれば話は別です。それでも、その予算を今の図書館の状況や将来の図書館の状況を考えてどう使うのが有効か、すごく悩むと思いますが…。

私にとっては、この連載をさせていただいたこ

とがとても勉強になりました。最初は書くことがしんどくてずいぶん苦しんだのですが、こんな機会がなかったらコンピュータ導入の記録を克明に残すことができなかつたでしょう。今年、岩槻商業高校は創立80周年を迎えるのですが、その記念誌に「図書館活動の十年」をまとめてほしいという依頼を受けました。もちろんコンピュータのことにも触れたいと思っています。

連載を読んで下さったみなさんも、本当にありがとうございました。内輪の話も多かつたので、どれくらいお役に立ったのかわかりませんが、コンピュータのQの字もわからない素人が悪戦苦闘している連載を読んでいただくことで、私にもできる

と自信を持って下さった方もいると思います。

さて、いつも一言多いと言われる私がさいご一言残すとしたら、「コンピュータ導入を考えるのなら、目先のことより将来のことを考えてソフトを選択すること」。導入した人がその学校にいる間はいんです。転勤した後、次の人が使えないようなシステムだと高いお金を出してコンピュータを導入した意味がありません。メンテナンスの問題も含めて、自分の学校の図書館の状況をじっくりと見据えて、システムを選んで下さい。もちろん、私にも同じことが言えます。次の司書さんが困らないよう、これからも頑張ります！

(きのした みちこ：埼玉県岩槻商業高校図書館)

たのしく 英米幻想文学 読める (近刊)

大神田文二／笹田直人編著「作品ガイド120」18世紀頃から現代までの120作品を、変身・異形、黒い笑い、メタフィクションなど全体を10のテーマに分類。見開き2頁で「あらすじ紹介」「読み方」「作家の履歴」「読書案内」にわけて解説。好評の「シリーズ文学ガイド」の第4弾。本体二八〇〇円

日本における子ども絵本成立史

三宅典子編著「こどものとも」がはたした役割！戦後の代表的絵本を通して、内容・作家・製作背景・社会の受容などを具体的に分析し、日本の絵本文化の本質に迫る。本体三五〇〇円

●盲導犬のこと、もっと知って下さい!!

わたしは盲導犬イエラ

日比野イエラ著 日比野清監督 ◇好評4刷◇

MINERVA 21世紀福祉ライブラリー ⑤ 本体一八〇〇円

ミネルヴァ書房 〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 075(581)0296 振替01020-0-8076

21世紀へ広がる
レグループ

～明日への読書のために～

レグループ加盟社

大月書店	学習研究社
河出書房新社	国土社
同朋舎出版	日本図書センター
雄山閣出版	ゆまに書房
リブリオ出版	

現代語訳

第二線の若手作家10人があの名作を現代語に甦らせた!

樋口一葉 [全5巻]

- 1 たけくらべ 松浦理英子
- 2 にごりえ他 伊藤比呂美
- 3 闇桜／ゆく雲他
- 4 十二夜他 阿部和重／篠原／藤沢周
- 5 大づもり他 島田雅彦

●セット本体5822円(税別)

河出書房新社 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 電話03-3404-1201

劉永華 著

『中国古代甲冑図鑑』

中国軍装史研究の第一人者・劉永華(上海戲劇学院助教授)が多年にわたる研究成果を一挙に公開。著者自身が描いた精密な復元図を多数掲載。中国全土22省都の博物館、図書館、発掘現場から集めた最新データを収録。

予価 本体14,000円+税
今夏発売予定/予約受付中

株式会社 アスペクト

〒160 東京都新宿区西新宿3-11-20 オフィススクエアビル5F
TEL03/3299-1493/FAX03-3299-1497

間違いを活かす 発想法



S・F・ジョーンズ 左京久代訳 ポテトチップスの始まりは？ 盲導犬誕生のエピソードとは？ ユーモアたっぷりのイラストを添えて贈る、愉快で奇抜な発明・発見の物語。104頁/1995円(税込)

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12 電話03(3255)4501



虎五郎と多々羅教授の老年心理学

堂々たる寝たきり

井上勝也・著 四六判・216頁

年をとるのは辛い。

でも、この本を読んだら年をとるのが楽しくなった！

高齢者の生きがい・性・痴呆など、広い範囲の問題を、江戸っ子老人・虎五郎と多々羅教授のかけ合いを通して考えます。老いと自分の人生についてじっくり考えさせられる本です。



定価1,470円(税込)

大日本図書

〒104 東京都中央区銀座1-9-10 ☎03(3561)8679 FAX.03(3561)3065

コンピュータ関連書籍出版の アスキー

『マルチメディア図鑑シリーズ』をはじめとする、授業をいきいきさせるCD-ROM学習教材や、マイクロソフト社の製品に関する公式の書籍を含む、コンピュータ教育にご活用いただける書籍を多数取り扱っております。コンピュータ関連の書籍をお求めの際は、ぜひ、お声掛けください。

株式会社アスキー 出版営業部

〒151-24 東京都渋谷区代々木4-33-10 Tel:03-5351-8194

限りなく広がる知識の世界 辞典500点突破！

日本語方言辞書

昭和・平成の生活語— 全3巻

65年間にわたる臨地調査を集大成！

藤原与一編 本書は昭和5年より平成6年まで、全国57要地を重点調査し、会話例・文例を豊富に掲げ、ことばの生きざまやはたらきを重視し、人々の生活の実相をとらえようとした辞典。菊判 平均760頁 本体各19000円

若者ことば辞典 最新刊 本体1800円

東京堂出版

〒101 東京都千代田区神田錦町3-7 ☎03(3233)3741 辞典目録進呈

留学の愉しみ

異国の歴史や文化との触れあいを求めて

東海大学外国語教育センター編

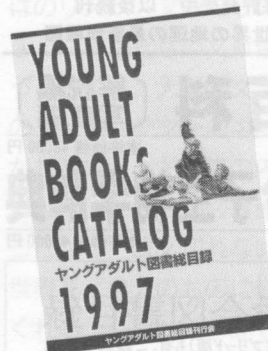
留学は君を変える！ 留学とは、単なる語学の習得ではない。異国の文化をじかに知ることによる他者との自己の認識でもある。本書は、長い交流の歴史とすぐれた制度を有する東海大学の引率教員が自らの体験を踏まえて執筆し、学生たちの留学体験記も掲載して留学先での学生生活が具体的にわかる手引書となっている。しかも単なるハウ・トゥーものにとどまらず個々の国や大学の歴史や文化をも知ることができる。

四六判/本体1700円(税別)

東海大学出版会

〒151 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 Tel.03(5478)0891 Fax.03(5478)0870

ヤングアダルト図書総目録



ヤングアダルトとは、ティーンエイジャーの年頃をさす「若い大人」という意味です。ヤングアダルトを対象としたあらゆる分野の本を収録した'97年版図書目録!! 頒価300円

ヤングアダルト図書目録刊行会

〒162 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハン内 電話(03)3266-9587(代表)

大きな活字で、らくらく読書！

新編「日本の名随筆」

生きるってすばらしい

これだけは読んでおきたい…珠玉の名随筆380余編を収載。●全20巻●揃定価：揃本体75,728円（税別）

いきいきトーク知識の泉 ①

著名人が語る 生きるヒント

21世紀を生きる時代を超える先人の知恵
各界の専門家・識者48人が語る講演録集成！

●全16巻 ●揃定価：揃本体59,200円（税別）

くらしっくミステリーワールド

豪華な15作家と52作品を網羅！中島河太郎・監修

●全15巻 ●揃定価：揃本体57,000円（税別）

リブリオ出版 〒112 東京都文京区大塚 3-5-11 TEL. 03-3943-8885
住友成泉小石川ビル別館3階 FAX. 03-3943-3540

怪奇SF映画大全

ナダル・V・ホー・ス編 定価：本体6800円＋税
ポスターで見る映画の歴史

ハリウッド・ゴシック

デイヴィット・J・スカル著 定価：本体4000円＋税
貴重な図版資料満載・究極のドラキュラ史

ドラキュラの客

ブルーム・スターカ著 定価：本体1500円＋税
ストーリーカー唯一の短編集

国書刊行会

〒174 東京都板橋区志村2-10-5
TEL. 03(5970)7421 FAX. 03(5970)7427

〒113 東京都文京区本郷七丁目二一八
電話 〇三―三八一―三一九一五（代表）

図書館必備の基本図書

全17冊セット 全17冊（税別）/毎月一冊ずつの配本（お支払いはその都度）もいたします。分割払いの便法もありますので、小社販売部までご照会下さい。

全15巻（17冊）完結

国史大辞典
編集委員会編

国史大辞典

空前絶後の規模と内容―最新の歴史大百科

総項目数五万四〇〇〇余、日本歴史の全領域をおさめ、考古・民俗・宗教・美術・国語学・国文学・地理など、隣接分野からも必要項目を網羅。執筆には各業界から三〇〇〇余名を動員し、最新の研究成果を盛り込み分かりやすく解説。新時代の歴史理解につとめた画期的歴史大百科辞典。

吉川弘文館

日本発のマルチメディア百科

CD-ROM版 発行=日立デジタル平凡社
マルチメディア 発売=平凡社

「マイペディア97」

'97年5月上旬発売
定価：本体10,000円（税別）



項目数：62,500項目
カラー静止画：約10,000点
動画・アニメ・サウンド、
音声も多数収録。
※WINDOWS 95対応。

平凡社 〒152 東京都目黒区碑文谷5-16-19
振替 〇0180-0-29639 TEL. 03-5721-1234

図説大百科世界の地理《全24巻》

田辺 裕=監修 A4変型判 各148頁 本体各7600円
第1期、第2期8冊好評発売中 以後続刊
■オールカラーで見る世界の地理の最新情報■

木の大百科〔解説編〕
〔写真編〕

平井信二=著 本体価格 48000円

微生物学・分子生物学辞典

太田次郎=監訳 本体価格 43000円

1997年一春

朝倉書店 総合図書目録

■CD-ROM版図書目録（ハイブリッド版）も有、ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29
〒162 ☎03-3260-0141

日本ライブラリー出版会

全国の図書館に信頼されて40年！
毎年定評ある巡回訪問販売を続けています。

当会は高校図書館・大学図書館及び公共図書館等の蔵書充実を目的とし、その一翼を担う有志出版社で構成された巡回訪問販売等を行うグループです。

皆様の図書ご購入の参考としてお役に立てばと願っておりますので当会をご利用たまわれれば幸いです。

〈会員社〉

明石書店・岩崎美術社・教育社・研究社
三省堂・東京書籍・東京堂出版・農文協
ベースボール・マガジン社：恒文社

日本ライブラリー出版会事務局
（三省堂内） 03-3230-9533